

トリセツ

第18号

—鳥大説明書—

鳥取大学に関する様々な情報を取り扱い、解説していく情報紙です。学生スタッフが企画・取材をすることで、学生目線から見た鳥大の姿をお届けしたいと思います。

学生寮ってどんなところ？

存在だけはなんとなく知っている鳥取大学の学生寮。ただ実際に住んでいたり、寮生の友達がいたりということがなければ、学生寮について知る機会はほとんどありません。そこで学生寮の実態を知るべく、2人の寮生さんにインタビューしました！



農学部
生命環境農学科 1年
さわらぎ
榎木 はるかさん

Qなぜ寮を選びましたか？

高校も実家から遠く寮生活でした。周りにだれか知り合いがいる環境が心強く、大学でも寮に住みたいと思いました。ただ高校時代の寮と違い1人部屋なので、新鮮な気持ちで生活しています。

Q寮にしてよかったと思うことはなんですか？

寮と言っても門限など特にかまrigないで自由なこととたくさん友達ができることです。お互いの部屋を歩き来して、遊んだり、ご飯のおすそ分けをしたり、荷物を運ぶのを手伝ってもらったりと楽しい生活を送っています。女子寮の1階にはラウンジがあり、自由に使えるので寮生で集まってテスト勉強ができることも大きいですね。

Q寮だとちょっと大変かも…と思うことはなんですか？

周りにコンビニ1つくらいしかないで、買い物は大学帰りに行くか、休みの日に自転車でショッピングモールまで行かなければならないことですかね。それから部屋が狭くてベッドを置く場所にも少し苦労しています。

Q寮を考えている後輩にメッセージをお願いします！

寮は大学から少し遠いですが、セキュリティーもしっかりしていて、友達もたくさんできるのでぜひ入ってほしいです。個人的には寮全体で七夕やクリスマスのイベントごとに集まって何かしたいと思っているので、そういうことが好きな人も大歓迎です。



農学部
生命環境農学科 2年
みょうが せいや
冥加 晟弥さん 寮長

Qなぜ寮を選びましたか？

部屋探いを親に任せ、寮は大学が管理しているということもあり、安心かなと思ったので選びました。

Q寮にしてよかったと思うことはなんですか？

周辺のアパートに比べて家賃が安いことです。1年生の春に寮の新入生歓迎会があって、そこで友達ができただけでもよかったです。その友達とは今も仲が良く、一緒にご飯を食べたりします。

Q寮だとちょっと大変かも…と思うことはなんですか？

大学から少し遠いところです。昨年は雪が降らなかったのですが具体的には言えませんが、冬は通学が大変になると思います。途中で踏み切りがあって足止めを食うこともあります。

Q寮長はどんなことをするのですか？

寮の避難訓練でまとめ役をしたり、新入生歓迎会の企画をしたりしています。昨年度の新入生歓迎会で寮長さんと仲良くなり、その関係で今年度の寮長をさせていただいています。

Q寮を考えている後輩にメッセージをお願いします！

住まいを考えるうえで最も家賃を気にするのなら寮をおすすめします。17,000円(水道・電気代は別)なので他のアパートより断然安いです。また、友達ができるか不安に思っている人でも、寮に入れば友達ができるはずです。



寮の外観の様子

	男子寮	女子寮
男子寮、女子寮の違い	定員 122名	47名
	部屋の広さ 約13.5㎡	約13㎡
	建物 鉄筋5階建て	鉄筋3階建て
寮の基本設備	ミニキッチン・ユニットバス・エアコン・IHヒーター	
	共同設備 コインランドリー・乾燥機・ラウンジ・物干し場	

感想

私は2年ですが、この取材をするまで寮のことはぼんやりとしか知らなかったで、アパートとはまた違う良さ気づくことができました。周りに友達や知り合いが多いという安心感が羨ましいなと思いました。(担当 沼田)

現役の鳥取大学生でも寮についてあまり知っている人はいないので、今回取材で知ることができてよかったです。男子寮と女子寮は隣接していますが、かなり雰囲気は異なり驚きました。(担当 田中)

鳥大生の冬の過ごし方

鳥取県は日本海に面し、雪が降る地域として知られています。実際、鳥取大学に入学すると先輩方から「冬には雪が積もることもある」と耳にします。鳥大生は冬をどのように過ごしているのでしょうか。鳥大生の声を聞いてみました。

地域学部 地域学科 地域創造コース 3年 **新倉 陸仁さん**

Q.鳥取の雪はどうでしたか？

地元(関東北部)では、雪自体はそこまで珍しいものではないですが、ここまで積もることはないので驚きましたね。(写真下)

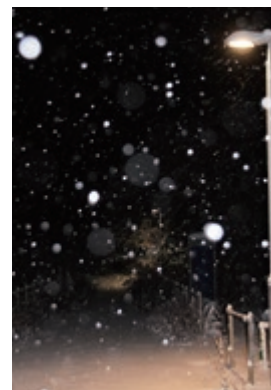


Q.どのように過ごされていましたか？

自転車が使えなくなり、移動が歩きになるので遠出ができなくなりましたね。というより、大学以外であまり外に出ることはなくてひたすらコタツに頼りきりでした。家を出る際にはスコップを使って家の前の階段を雪かきました(写真右)。友達の中には自転車にスタッドレスタイヤを導入して移動してる強者もいましたね。



Q.思い出に残っていることはありますか？



雪が積もった時の夜は、いつも見ている景色が全く違うものになります。街灯が少ない場所では雪の美しさが際立って、綺麗な写真を撮ることができました。(写真左) また、空気が澄んでいるので星も綺麗に見えます。ただ雪の積もった道をみんなが踏んで、固まって滑りやすくなっているののでしっかり足元を見てないと危ないですね。それでも雪の夜の散歩は楽しいですよ、おすすめです。

感想

鳥取の冬を知らない1年生の自分は今早めに対策しておくべきだなと感じていましたが、冬の楽しい過ごし方を知って冬が待ち遠しくも思いました。(担当 岡村)

農学部 生物資源環境学科 4年 **岩本 衛さん**

Q.大雪で苦労したことは？

一昨年は積雪量が多く、線路が雪に埋もれて車が通常通り運行できない状況でした。また自宅の周りでは自ら除雪して、人が通れるスペースを確保するのに精一杯でした。3日ほどで十分に除雪をしていただきましたが、この状況が1週間続くとかなり大変だったと思います。



雪に埋もれる線路

Q.鳥取と地元の差は？

私は北陸出身で、決して雪に不慣れな訳ではありません。地元では道路に融雪スプリンクラーが設置されており、不便に感じることがありませんでした。しかし鳥取ではそのような設備が十分ではなく、本当に大学に行けるのかと不安に思いました。

Q.鳥取での冬の楽しみ方は？

鳥取県の観光名所である鳥取砂丘では冬に雪が積もり、一面真っ白の景色になります。私が所属する写真部の先輩が撮った写真は遠近感がなくとも綺麗でした。さらに鳥取キャンパスから車で90分ほどの場所にあるわかさ氷ノ山スキー場でスキーをして、冬を満喫します。



スキーの写真

私は雪が降らない九州出身なので今回の取材を通して、積雪の際の困ってしまうことなどを知るよい機会になりました。(担当 鳥居)

取材にご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

●2019年8月発行 ●編集発行/鳥取大学広報企画室学生広報スタッフ
ご意見・ご感想はこちらまで→ ge-kouhou@ml.adm.tottori-u.ac.jp

●鳥取大学公式ホームページ(学生広報スタッフ)
<https://www.tottori-u.ac.jp/5333.htm>
●学生広報スタッフTwitter
<https://twitter.com/gakuseikouhou>



わたしのトリックス



当日の会場全体の様子です。イベント当日には20店舗が出店され、200人ほどが訪れました。たくさんの参加者が集まり、会場は賑わいを見せました。



実際に出店された店舗のうちの1つです。出店者の中には、県外から参加した方も多くいました。会場には、それぞれに特色のある店舗が軒を連ねていました。



当日のイベントで参加者同士が交流している様子です。参加者がお気に入りの本を通じて楽しく交流できる場であることもトットリヒトハコの大きな魅力です。

みなさんは鳥取大学に「トットリヒトハコ」という活動があるのを知っていますか？
トットリヒトハコは、地域学部の必修科目「地域調査プロジェクト※（前地域調査実習）」の中から生まれました。年に一度鳥取市で一箱古本市※を開催しており、今年は5月26日（日）に県立図書館前にて行われました。今回は、注目のトットリヒトハコを取材してきました。

※地域調査プロジェクト：地域学部生全員が履修する実習科目。人間形成コースでは2年次の1年間に渡って、地域と教育に関わる問題について調査・研究を行うために、数名ずつのグループに分かれて、調査法の学習や関連する文献の講読、更には県内外での調査等も行っている。
※一箱古本市：事前に申し込みをすれば、誰でもダンボール1箱分の古本を売る本屋になれるイベント。10年ほど前に始まり、全国各地で行われている。

トットリヒトハコの担当をされている地域学部地域学科人間形成コースの小笠原先生にインタビューを行いました。また、今年実際に活動されていた人間形成コース3年の中西さんと松島さんにもお話を伺いました。



地域学部地域学科人間形成コース 3年 まつしま みき 松島 実希さん

地域学部地域学科人間形成コース おがさわら たく 小笠原 拓先生

地域学部地域学科人間形成コース 3年 なかにし さやか 中西 咲也香さん

トットリヒトハコがはじまったきっかけはなんですか。
小笠原：鳥取の読書状況や読書環境を調べる地域調査プロジェクトの中で一箱古本市について話したことがきっかけです。

このイベントを屋外で行う良さとはなんですか。
中西：屋内より屋外のほうが開放的で、閉ざされている感じがありません。なので、ふらつと気軽に立ち寄りやすいことだと思います。昨年のトットリヒトハコはとっとり出合いの森の出合いの広場で開催され、私自身屋外で行った良さを感じました。

トットリヒトハコの魅力はなんですか。
小笠原：トットリヒトハコでは店主が、自分の好きな本を売りたいという気持ちで出店するため、店ごとにそれぞれの個性が出ます。つまり、お客さんが好きそうな本を扱っている本屋さんがあるんですよ。そこでは、あまり知らなかった本でも自分に合った本に



出会いやすいと思います。また、好きな本を見つけてそれで終わりではなく、本好きが集まれる機会にもなっています。

活動していて良かったことはなんですか。
松島：イベント後に出店された店主の方から「トットリヒトハコに参加することで、鳥取の本好きな人達との出会いがあった良かった」というメッセージが届きました。本を通して、人と人との繋がりができるということを実感しました。

みなさんのおすすめの本を教えてください。
中西：黒柳徹子さんの『窓ぎわの



トットちゃん』という本です。私は、教師を志望しているのですが、同じく教師を目指す人にぜひ読んでもらいたいです。特に作中に出てくるトモ工学園の校長先生の教師としてのあり方に感銘を受けました。

松島：吉本ばななさんの『キッチン』に収録されている『ムーラン・イト・シャドウ』という短編です。私は、吉本ばななさんの作品が好きで、これはその中でも気軽に読むことができます。内容も切ない感じでもともと良いと思います。

小笠原：佐渡裕さんの『僕はいかにして指揮者になったのか』という本です。内容は波乱万丈とても面白いサクセスストーリーです。佐渡さんはもちろん才能はあるのですが、もしかしたら隣にいたかもしれないような人だと思



います。みなさんにはぜひこれを読んで自分の可能性を狭めないでほしいです。

今後どのようにしていきたいですか。
中西：今年、イベント用のポスターの設置やフリーペーパーの配布を学生が行ったのですが、もう少し多くの場所での宣伝できれば良かったなという反省があります。今年のように大学の中央図書館と地域のフリーペーパーを置いてくださるお店に加え、学部棟にも設置したいと思っています。ぜひ鳥大生にも来てほしいので、今後は学内で目に付きやすいような宣伝の方法も考えていきたいです。

トットリヒトハコのマスコットキャラクター「トットリン」を紹介します。

トットリンは、昨年活動していた学生がデザインしたキャラクターで「トットリヒトハコ」のカタカナが組み合わさってできています。昨年、好評だったため今年も引き続きマスコットキャラクターに起用されています。



「トットリヒトハコ」って何？

トットリヒトハコは鳥取市内で初めて行われた一箱古本市です。このイベントを通じて、一般の方や本屋さんなど、本が好きという地域の方々の交流の場を作ることや、人と人とのつながりの形成を目的としています。それぞれの出店者がダンボール一箱分という限られた数の本を厳選して用意する、まさに本好きの本好きによる本好きのためのイベントです！
活動メンバー数：4名



感想

今回の取材で初めて一箱古本市というイベントを知りました。機会があれば、ぜひ私も参加してみたいと思います。これからも今後注目のトリクミを紹介していきたいです。(担当 榮)

普段話す機会のない人とも本を介して繋がれるところに魅力を感じました。インタビュー時、生き生きと楽しそうに本について話しておられたことが印象的です。(担当 藤本)

本を通して新しい人や世界と繋がれるのは古本屋さんならではの良さなのだと感じさせられました。もっといろいろな人にこの活動が広まって欲しいです。(担当 北川)